



工大高校教職員として求められる力

～ほめ達!研修会を受講して～

広島工業大学高等学校 全日制課程
教頭 橋本 佳岳

はじめに

平成30年は年間にわたり、体罰や各種ハラスメントの問題が世の中を騒がせました。

スポーツ界では、女子レスリングや大学アメリカンフットボール、ボクシング、新体操などの団体から、パワーハラスメントがあったのではないのかという批判の声があがりました。また、大相撲界では、番付下の者に対する暴力行為により、複数の力士が引退しています。政治家や官僚によるセクシャルハラスメントも日々ニュースをにぎわせていました。教育界でも体罰に関する事件の発覚、報道が多くなりました。

一連の報道について、そのような事象が急に増えたということはありません。今までは表に出なかった、あるいは声をあげられなかったことが表面化したにすぎません。

ハラスメントや体罰は当然許されることではありません。生徒を育てる私たち教職員は、「指導」と称したハラスメント行為や体罰をしてはならない、許さないという意識を常に持っておかなければいけません。その一方で、生徒や保護者への対応は旧態依然の方法では難しいが、具体的にどうすれば良いか悩む場面も多いと感じています。

変わりゆく工大高校

工大高校全日制課程では、特別進学類型の進学実績向上や、総合進学類型の基礎学力定着を目的とした新しい学習システムの導入など、これまで様々な学校改革を実施し、成果を上げてきました。昨年度には共学化を

再開し、校内の様子も男子校時代の雰囲気とは一変しております。さらに、アクティブ・ラーニングエリアやICT機器を取り入れたプレゼンテーションエリアを備える3号館が誕生し、学び方の改革も行っています。

玉田康荘前校長は、昨年度、共学1年目の学校改革目標として「自己改革～生徒が変われば先生も変わる～」を掲げ、我々教職員の教育意識の向上を図りました。共学2年目の今年度、新校長として就任した山口健治校長は、生徒・教職員の行動指針を「朗らかに、誠実に、しなやかに」(季刊誌鶴学園171号に詳しく掲載)といたしました。朗らかで明るく、人や様々な物・事にも真心を持って真摯に向かい合い、そして多様な価値観・新しい価値観を受け入れられるよう、工大高校の教職員としてあるべき姿を示しています。

変わりゆく本校の中で、我々教職員は具体的にどのように意識改革をすればよいのか、その方策の一つとして取り入れたのが、夏の教職員研修で行った「ほめ達!検定」3級の全員受検です。

「ほめ達」とは

ここで、三重県のある自動車学校の話を紹介いたします。

少子高齢化や若者の車離れが叫ばれ、運転免許を取る人の数は減少を続けているにもかかわらず、この自動車学校の生徒の数は、あることをきっかけに増え続けています。それは「生徒をほめてほめてほめちぎる」学習スタイルです。「ほめる」教習を始めて以来、生徒の受講におけるモチ

ベーションが格段に高まりました。その結果、自動車免許合格率が向上し、さらに卒業生の事故率が半数近くまで減少しました。また、「ほめる」メソッドに取り組むうちに、社員の方の仕事に取り組むモチベーションが上がり、会社全体の雰囲気が良くなったそうです。

「ほめる力(コーチングマインド)」の効果を世に広めるべく、「ほめる達人協会」が設立され、この自動車学校での実績を基に「ほめる力」を学び、体験し、検定級毎にその力の定着を確認できる試験が「ほめ達!検定」です。

先にも述べたように、本校の全日制課程はまさに改革過渡期に入っており、教職員の意識改革が必要となっています。また、多様な学習スタイルが可能となる場として注目されている通信制課程においては、学校教育の中で集団生活になじめなかった生徒、途中で挫折した学びを再開したいという生徒など、様々な背景を持つ生徒と関わります。山口校長が示す新しい行動指針のもと、まずは私たち教職員が朗らかで誠実な、そして多様な価値観・新しい価値観を受け入れることができるしなやかさを持って行動することを目指し、「ほめる力」を高めるという考え方は、今の本校にとって進むべき一つの道筋であると考え、この研修を企画しました。

教職員研修会の様子

昨年8月、「ほめちぎる人財育成コンサルタント」の橋英樹先生を本校にお迎えし、半日の教職員研修会をしました。対象は本校全日制、通信制課程



の全教職員です。

研修内容は、前半は橋先生による「ほめる達人という生き方セミナー」の受講、後半は「ほめ達!検定」3級受検の2部構成です。

前半のセミナーでは、「ダメ出しの達人」の橋先生が「ほめる達人」に変わることになった経緯や、「ほめる」ことによってほめられる人はもちろん、ほめる側にも精神的に効果があること等を、わかりやすく解説されました。内容の一部を次に紹介します。

- 「ほめる」とは、「人」「もの」「できごと」の価値を発見し、認め、相手に伝えることである。
- 成長し続ける人の共通点は、自分に直接関係がないことでも、「今の自分ができているかどうか」考えることができる人である。
- できごとをマイナスからプラスに変換して考えることはできるが、感情がブレーキをかける。見方を変えてみよう。
- 「全力の拍手」、「全力のうなずき」、そして「笑顔」はとても大事なコミュニケーションツールである。
- 「ほめる」習慣を作ろう。言葉が変わ

り、考え方が変わり、行動が変わる。「無意識」にできるように「意識」しよう。
●「ほめる」ことで心の視野が広がる。過去の自分と今の自分を比べ、その成長を「ほめる!」

また、研修には多くのワークショップがあり、楽しくも有意義な研修でした。

後半の「ほめ達!検定」では、受講者である本校教職員全員が3級を取得いたしました。



最後に

「ほめ達」の研修で特に印象的であったのは、研修会場に受講生である全教職員の全力の笑顔が溢れていたことです。生徒も教職員も笑顔でいっぱい、こんな学校にしたいと強く思いました。

学校改革過渡期の全日制課程、様々な背景を持つ生徒たちが通う通信制課程の双方で、この「ほめ達!」マインドを持った指導は大きな効果があると感じています。「他者承認」「自己承認」「共感」は、生徒の成長過程で育まなければならない必須の感情です。人にほめられる、認められることは、目標到達のためのモチベーションに直結します。また、生徒・教職員に関わらず、他者や自分をほめようとする心の動きは、「当たり前」のことに感謝する視点が生まれ、物事に対する視野を広げます。

そして、「生徒達の成長を感じ、認め、ともに成長していきたい」という、私共が、そして教職員の誰もが、最初に志したその想いを確認できた、貴重な機会でした。

